

平成30年度 第2回清瀬市男女共同参画センター運営委員会 議事録

日時：平成30年10月3日(水) 午後2時～4時

会場：男女共同参画センター 会議室1

委員出席：12名

桑山委員長 池田副委員長 堤委員 布施委員 吉田委員 兵頭委員
伊藤委員 近藤委員 片寄委員 高橋委員 矢ヶ崎委員 今村委員

欠席：なし

事務局： 福田センター長 高田

1 男女共同参画センター長 挨拶

今週末アイレックまつりがあるのでおちつかない雰囲気があるがお許しいただきたい。予算上、運営委員会が一回の開催になって本来、運営委員会が何をやっていくのかという大事な議論をする良い契機だと受け止めている。是非、皆さまのお考えをお聞かせいただき、いい形で運営委員会が機能的に役割を果たせるようになることが、アイレックにとっても委員一人一人にとっても参加した意味になるのではないかと思う。貴重な第二回という機会を設けられたこと有難いと思っている。

・委員長より又エックの男女共同参画フォーラムの広報誌体験ワークショップに参加した感想の発表があった。

議 題

(1) 前回の課題と情報共有

① 予算について

事務局から議事録がHP上で公開されることと予算についての説明があった。

委員

・予算を組むときに、この委員会で議論をするものなのか。

事務局から予算の仕組みについて説明した。

センター長

・ここだけではないが運営委員会は予算に対する要望を検討する場の一つになり得ると思う。

委員

・30年度の予算を組む時に、例えば女性広報は前年比68%になっている。また起業支援事業は新規で増になっている。こういう配分の議論というのは、委員会ではしな

いのか。今まではしなかったのか。

委員

・その議論はしていなかったと思う。予算をつくる前に意見を出していこうというのは何回か話題になっていると思うが、そういう時期にアイレックまつりがある。そのような事情で、運営委員会は開かれていなかった。事務局がどのような予算要求しているかも特に報告がなかった。だから、結果を聞くということになる。結果に対して意見を言ったことはあった。来年は元に戻す要求をして欲しいとか。ただ、運営委員会でこれをやるから予算化して欲しいという議題や提案はなかったと思う。

委員

・私見だが運営委員会としては予算についてまで立ち入るべきと思われる。細かいことひとつひとつは議論できないが、大きな動きについては意見を言わないのはおかしい。特に起業支援については議論すべきだった。

委員長

・起業支援事業については半額、国からの交付金が出ている。事業によっては補助の対象となる事業もある。

センター長

・起業支援事業については今年始まった訳ではなく、前年までは三市連携事業として市長会の補助金で運営していた。それを継続、発展させていきたいということが一つの理由だ。もう一つ、企画課でやっていたまちづくりの課題と解決の方向性を追求していく際に「女性の視点」が必要とされていた。二つの要素は「女性が働くこと」に共通点があったため、女性起業応援イベントとそれに関連する講座、地域で働く場を充実させるための調査等が予算書に上がっている。

委員

・運営委員会で何をご議論いただくかについては今回、初めて要望があって決算書と予算書のコピーをお渡ししたが、なかなか決算書、予算書ベースでご説明いただいても、ちょっと見えにくい。助成金事業など一つの事業に対していろいろなところからお金が出てきている場合もある。これまでは事業レベルで、事業計画と終わった分の報告という形で運営委員会にご説明していた。そうすると事業ごとなので理解しやすいのかなと思う。これまでの運営委員会の開催時期が適正な時期だったかといえ、回数によって意味は違うと思われるが、来年度の予算要求をする9月頃に来年度の事業をこういうふうに組み立てますと説明があれば、その時にいろいろご意見をいただき、予算要求に反映できるのかなと思う。開催時期を9月か10月に合わせていき、事業ごとのレベルの資料でわかりやすく説明できるのかなと思う。

委員長

・今後の委員会の開催時期とか回数等が議題としてあがっているが、そういう問題から考えて行くと、前年度が終わった段階で運営委員会を開いて、こういうお金の流れでこういう事業が行われたと報告を受け、委員間で検討を重ねつつ、予算を決める時にもう一度集まって次年度の提案をしていくような流れが考えられる。運営を考えるときにどう予算を割り振るかということも議題として取り上げるべきだと思われる。今までの慣例とか事務局の作業なども考え、効率的にやっていきたい。

委員

・事業の内容について、もっと踏み込んだ議論がされていない。税金を投入して何をするのかという議論をもっとすべきではないのか。事業の内容の説明を深く聞きたい。

センター長

・運営委員の方には内容がわからない事業にこそ関わっていただきたい。事業の主旨等関わることで見えるものもあるはず。先日のフェスタ関連の講座も大盛況だったが、そのような反応のある事業を開催したときに、それが何の事業で何を目的に行われたのかとか、改善点とか是非ご議論いただきたい。事務局側も開催してみてもわかることもある。女性起業についても交付金の対象として立ち上げる時期に、ワーク・ライフ・バランスを考える上で事業者に対する調査だけではなく、地元で起業している方の顔が見える場所が必要なのではないかと考え、女性起業家を集めて開催した。その結果、反響があったので、これは続けていいのではないかと、このように事業を行いながら評価をして形成している部分がある。それに対して、皆さまの立場、経験から意見をいただきたいと思っている。

委員

・決して起業支援に対して反対をしている訳ではない。むしろ大切なことだと思っている。近隣では、こういう事業で税収が上がったり、雇用が伸びたりして市が発展している。こういうことが起業支援だと思われる。しかし、こういう内容の是非を問う議論はすべきだと私は思う。

委員

・こういう意見から考えると、今アイレックは来年度に向かってどういうものに重きを置いて予算要求するのか聞かせていただいて議論したい。

センター長

・来年度の予算については、これからの検討なので今の時点でどこまで言えるのかということはあるが、基本的には今、手掛けている事業は続けていく方向で考えている。

委員

・そうすると来年も女性起業家に対する支援事業は継続されるのか。

センター長

- ・この地方創生交付金というのが三年間を事業スパンとして設計されている。そういうことで、その延長上の事業を続ける予定である。

委員

- ・支出のバランスも今年と同じ傾向になるのか。

事務局

- ・これ以上、アイレックまつりや Ms.スクエアの予算を少なく要求することは少なくとも事務局側は考えていない。

委員

- ・Ms.スクエアの発行回数を一回増やすとか、委員会の開催回数を戻す形で予算要求をしてみるとかはどうか。

センター長

- ・今日の議論については反映したいと考えている。

②委員の意見聴取のまとめ

事務局から事前に委員より寄せられた男女参画センター運営についての意見の説明があった。

委員

- ・自分はDANKATUに所属して、今年度は介護の講座も実施する。男女参画についての意見だが、今までの男性社会での偏見を変えることが大切だと思われる。男女が全て活躍するためには男性が女性をサポートする必要があると思う。また、男性の意識改革が必要で、予算の話が出たが予算以前に男性の偏見を変えることにまい進するべきだ。

委員長

- ・サポーター等、登録団体として活動してきたが効果が市民レベルに浸透していない気がする。その問題にも取り組めたらよいのではないか。

委員

- ・自分をつながりカフェに関わっているが、やはり参加者に男性は少ない。あと、参加者の年齢は高い。仕事や子育てが終わらないと活動に加われない。なかなか意識を持って参加するのは難しい。

委員

- ・自分をつながりカフェと図書チームで活動しているが、カフェも図書チームも平日

昼間の開催なので仕事をしている若い人の参加は難しい。K-e-tやフェスタのような機会は貴重だと思う。特にフェスタは休日の開催なので来場者も多く、起業ということだけではなくアイレックを知るいいきっかけになる。男女共同や参画の意識までは、なかなか到達しないがアイレックの設立等の趣旨だけでもわかってもらいたいと思っている。

委員

・今年度の女性起業をメインに据えた運営について、交付金の対象であり、反響も大きいとのことで、こういうことが求められているということを感じた。これまでの実績もある広報誌であるとかアイレックまつりとか相談事業とか今まで積み上げてきた努力もあり、そういうところでアイレックと繋がっている方も数多くいると思う。清瀬は高齢化が進んでおり、広報誌が紙ベースで配られるということも、とてもいいことではないかと思われる。ただ、市の方向性としてはweb等の活用ということだが、これまでの実績も大事にしたいと思っている。関わってくださる人というのは何物にも代えがたい財産だと思うので、それを大事にするということもイベントをやるということだけではなく大切だと思う。

委員

・自分は清瀬の生まれではないが、アイレックに初めて関わったときに清瀬の女性の方がこんなに一杯、活動をしているということに驚いた。それはすごくいいことだと思う。市に来た当時は近所に自治会もなかったのが孤立してしまっている情報がない、頼れるものは広報誌だけという状況でMs.スクエアが入っていても何のことかわからなかった。アイレックが何をやっているのだろうかということも正直言ってあった。しかしながら、女性の力に圧倒されるということもあったし、いろいろな講座を考えてやってくれる。意識調査も大変な仕事だと思うが、内容が素晴らしかったので、もっと周知をすべきだと思う。講座やアイレックまつりに参加して盛況でいろんな方が来ていて輝いて見えた。講座の講師の方も行政側も大変なご尽力をされていることが素晴らしいことだと思っている。

運営委員会のことを申し上げますと、要綱の第2条にある「運営に関する事」に突っ込むのではなく、報告を聞いて運営が滞りなくされているのを判断することでもいいのかなと思っていたので、ただいまの議論のように細かいところまで突っ込んでいくところまで考えが至らなかった。どこまで運営委員としてかかわるのか、事業の予算が減っていくのは悲しいことだが、何とか予算を増やしていただきアイレックを活用していただいて発展していくように、運営委員として見守っていただけるといいのかなと思っている。私の認識が違っているのかもしれないが、皆さまのいろいろな意見を聴かせていただいて修正していきたいと思う。正直なところ目からうろこの委員会だ。

委員

・登録団体枠で委員を初めて引き受けた。11月23日にあるものは、この起業支援の予算の一部か。その予算執行の流れというのがわからないというのはある。どうい

うところに予算が動いていくという。私たちにしてみれば突然、予算の内訳を見せられても作成の手順等がわからないのでどうなのかと思った。

センター長から起業支援事業の内訳を説明した。

委員

・講座の内容は市で発行している事務報告書にも載っている。それも参考に資料提供すればいいのではないか。

委員

・起業支援については企画書のようなものはあるのか。あれば一度見てみたいと思うが。

事務局から地域再生計画が近日中に HP 上にアップされることを説明。

委員長

・運営員会が予算の所からちゃんと絡んでいける委員会になっていきたいという気持ちはある。ここでの議論は来年の予算に加味してもらおう方向でお願いしたい。これから皆さんに提案していくのが平成30年度の事業活動が終わった時点で6月くらいに一度、委員会として集まって報告を受け、その報告とかお金の使い方をふまえた上で、平成31年度の活動を見ながら次年度の予算について議論していく方向で進めたいと思っているがいかがだろうか。

(2) 検討事項

①運営員会の開催回数について

委員長から年度2回の開催をしたい旨とタスクチーム、検討会設置の提案があった。

委員

・タスク委員会の活動内容は全体の委員会にかけなければならない。委員に報告の内容を諮り共有する必要がある。ということから2回と固定しない方が良いと思われる。議題についても何をタスク委員会に任せるのかは全体の委員会で決めた方が良い。先程の議論で男性の意識改革の話が出たが具体的にどのように取り組むかはタスク委員会で取り組む必要がある。講座の開催についても曜日や時間帯についての議論もすべきだ。議題は沢山あるので全体会で優先順位をつけて小回りの利くタスク委員会で議論して全体会で報告するというサイクルを作ることが大事だ。

委員長

・では、委員会がタスクチームの議題を掌握して進めようということで。いきなり実効性のある委員会に移行していくのはハードルが高いのだと思うが、有償なので実効

性を意識しようというのと、委員会の開催回数については1回では中途半端になってしまうので最低2回は開催したい。と同時にタスクチームの活動をして中間報告を受けていくとしてはどうかと考える。

センター長

・情報共有、連絡等についてはアイレックも関わっていく。開催については委員の方についても多忙な方が多いので調整も負担だが、出席する委員の方も負担だろうと思われる。予算の決定権はセンターにはないが、意見を求められることはあるので、その際にはできるだけ委員会のご意向に沿った形で伝えていく。また、今後必要があれば今回のような形で開催させていただく。

委員

・皆さんの温度差が違うので、しっかりとした意識を持った話し合いができないなら何回も集まる必要はない。問題は意識をもつということで何回開催するということではないはずだ。問題は委員メンバーの意識の温度差だと思う。

委員

・一回開催だと顔合わせだけで終わってしまうので、運営をしていくというところまで話が進まないと思う。委員になった皆さんは意識の部分では高い方だと思うので会議の開催も有効なことと私は思っている。市内で運営委員会が減らされているのは会議自体の形骸化も理由の一つであったと伺っている。確かに運営委員会の意味や今までの役割について私は高く評価している。1回は少ないので、せめて2回は開催した方がいいと思う。運営していくのだから市民の代表として、この場を持っている。男女共同参画の意識というのは、まだ浸透していないということで運営委員会の持つ役割は、市民にそういった意識を持ってもらうという啓発の意味もあるのではないかと考える。私は回数がある方が効果的であるのではないかと考える。

委員

・要は皆さんで何を議論するかだ。今日だけでも沢山、議論の材料が出てきた。男性の意識改革、講座の開催日の問題、そういったものの中からどういったことを議題として取り上げるのか。ここで決めるべきだと思う。タスクチームにかける議題はこれであると取捨選択して議題を決めるべきだ。将来的には答申として市に提出をしたい。

委員長

・何をやるかという話もあるが前回の委員会と今回の話し合いの中やアイレックでやろうとしていることを加味すると、Ms.スクエアの刊行回数を戻したいのは、やまやまだが、一度決まったことを変えるのは難しい。ホームページ等を新しいやり方で作るということで予算を減らされているようだが、ではホームページを作ろうと。センターの方でも作りたいけどどうやったらという悩みがあるようだが、Ms.スクエアが減った分広報活動は必要だなと思う。あたらしいネット上の情報は年配の方々は見づらいたろうが、

アイレックの活動をPRするとか、アイレックで掲示してあったり市報やMs.スクエアに載ったりするくらいで他に広報する手立てがない。やはりホームページがあると良いのかなと思うので、ホームページを作成する方向でアイレックに動いてもらったらいいのではないかということ。

それから、清瀬の市内で働いている人に対して事業所へのPRが足りないという、商工会にも積極的に交流していくなど、意識を変えていただければ何か動いていくのかなと思う。事業所へのPR活動とか、そこには商工会との交流で機会も出てくるであろうし、男性の意識を変えていただくための理解にも繋がっていくのかと思う。

あと、学校への啓発事業も考えている。8月末に行われた国立女性教育会館（ヌエック）の全国から男女共同参画にかかわる方々があつまるフォーラムでワークショップを実施した経験の中から、大人に伝えるのは凄く難しいが、子ども達に伝わっていくと広がるような話があった。デートDVの啓発を出前授業でやる話だったが、そのような経験をされた市民の方が参加者にいた。他にも女性起業家にゲストに来ていただいてお話を伺うだけでなく、こちらも勉強してバックアップ出来たら等考えていたが皆さま、いかがだろうか。

センター長

- 男性への働きかけの中でも、事業所への対応を考えると、多くの男性の意識に対する新しい取り組みになるのかという面がある。アイレックが独自の取り組みとしてDANKATUというサポーターチームがあるので、今年の活動は別に決まっているが、そちらの活動の今後の方向性の意見をもらったり、今のメンバーにとってもパートナーが増えることは歓迎であり、意見を吸収していきたい。また、次の新しいサポーターが求められれば考えていきたい。

委員長が言ったことに、ホームページの立ちあげがあったが、正確に言うとホームページだけを立ち上げるのではなくて新しいメディア、フェイスブック、ツイッター、インスタグラム等、アイレックとして何をどこにやるべきなのかというのは、ご議論して整理していきたい。女性起業応援事業の広報の場合は、やることや、対象がはっきりしているので、簡単。市もフェイスブック、ツイッターのアカウントを持っている。アイレックとしては、載せる情報と他に手段はないのかと落ち着いて考えたい。やみくもに一回流したから新しいメディアやりましたというふうにはいかないのではないかなと思う。是非、ご意見をいただき、広く相談相手にもなってもらいたいし、必要であればイベントチームに持ち掛けて講座を開くことも考えられる。今回、女性起業の支援事業としてSNSの講座を行ったところ大盛況だった。この関心度の高さを考えると来年度も何かできるかもしれないし、限られたリソースではあるが、事務局が仲立ちして横の連携も可能性があるのでは、ご意見をもらえればと思います。新しいメディアに取り組むの言うのは簡単だが、具体的にどうするのかをどなたかと議論させてもらえればと思います。

委員

- 講座のチラシに広告を載せて広告料を貰うとかもっと工夫があるのではないかな。

委員長

- そういった話をやるために集まれる方いますか。もちろんテーマにもよるとは思うので、テーマと日程はお知らせする。出席できなくてもメール等で結構なのでご意見いただきたい。

(3) その他

事務局よりウィメンズプラザに提出するパネルの作成依頼があった。

次回運営委員会日程について 平成31年度前期（6月ごろ）開催予定